

「WHAT GAME SHALL WE PLAY TODAY?」展

展覧会内容

トーキョーワンダーサイトとドイツ文化センターは、2007年より「アートの課題」をテーマに議論を続けてきました。

グローバル化が進む今日の社会で、我々に突きつけられる課題は数多くあります。様々な従来の絆は意味を失い、同質の人間たちが構成していた社会は移住者によって多彩なマルチ文化社会へと変化しています。共同体としての社会が協働の単位としてかかげる目標や課題は何なのか。その問題は今や世界共通のものとなっています。

「差異」が価値として認められる共存社会はどのようにすれば作りだせるのでしょうか。芸術、そして文化機関、アートセンターの役割は大きいはず。問題への独自のアプローチ、また対話の促進剤として、文化は新しい可能性を提示しつつ、社会の変化に貢献することができるのです。

当企画では、芸術や文化機関、アートセンターが世界の様々な地域や国で、どのような形で対話を促し、新しい社会の構築に貢献しているかという点を、今回の展覧会では、異なった社会的背景を持つアーティストによる展覧会、ラウンドテーブルを通して、今日のアートの持つ可能性や挑戦をグローバルな視点で探っていきます。

In today's globalized world, communities are challenged by transformation. Traditional bonds are degrading, once homogeneous societies are becoming multi-cultural and diverse as a result of immigration. The meaning of being a community and the functions it needs to perform to accomplish its aims are shared issues in cities all over the world.

How can we build a community which finds value in difference? The arts and its institutions can play an important role in this process. The sphere of the arts has unique ways of posing questions and initiating dialogue, thus providing new outlooks and contributing to the way we deal with issues in society.

With ever increasing social complexity and growing interdependencies in view, the potential of art and culture for community building should be tapped on. This project will examine the role of the arts and art institutions and their communicative performance in society.

The meaning of art in society is changing at the outset of the new century. The project "On the Agenda of the Arts" will have a close look at the meaning and the direction of this process and the many relations between art and society.

出展アーティスト

**マルクス・アムバッハ**  
Markus Ambach

ドイツ  
メラニー・ボノ (NAKディレクター、ドイツ) 推薦



《THE GARDENER – SERVICE, CARE, SUPPORT》  
2006  
shopwindow, tools, plants  
400×150×100cm

デュッセルドルフを拠点にガーデンやアーティストのサロンにおいてコンセプチュアルな作品を展開、及びオーガナイズを行っている。

**イスワント・ハルトノ**  
Iswanto Hartono

インドネシア  
アグン・フヤットニカ (キュレーター、インドネシア) 推薦



《BLUE》  
2007  
steel, neon lamp  
1200×1500×300cm  
GALERI SOEMARDJA, Indonesia

ジャカルタを中心に活躍し、グローバルな政治や戦争の問題を様々な手法で作品化している。

**サラ・ドラタバディ**  
Sara Dolatabadi

イラン出身日本在住  
トーキョーワンダーサイト推薦



《Ordinary fruit》  
2008  
mono print on paper  
40×30cm

テヘラン出身で東京在住。イスラムの文化圏の女性を持つ内面的な問題を取り上げ、かつ現在は社会における人間の問題を取り扱う作品を展開。

**アリ・カイズ**  
Ali Kays

レバノン  
クリスティン・トメ (アシュカル・アルワン・レバノン現代芸術協会ディレクター、レバノン) 推薦



《Raafat Al Hajjan the third.》  
2007  
video  
14 min.

レバノン在住。アラブ社会の文化的歴史的背景や現代における課題をペインティングやビデオなど幅広いメディアで表現する作品を展開。

**栗林隆**  
Takashi Kuribayashi

日本  
トーキョーワンダーサイト推薦



《Aquarium : I feel like I am in a fishbowl》  
2006  
mixed media  
Singapore

二つの異なる空間、境界を行き来することによって、物事が領域を持ち、そして事物として成立し、定義されることへの根源的な問いを投げかけるインスタレーションを制作。

**デニズ・ギュル**  
Deniz Güi

トルコ  
ワシフ・コルトウン (プラットフォームガランティ現代アートセンターディレクター、トルコ) 推薦



《Wings of Desire》  
2004  
roof tiles  
910×1000cm

イスタンブール在住。写真、ビデオ、テキスト、サウンドを使ってサイトスペシフィックかつインタラクティブな作品を制作することが多い。アートライターとして雑誌にも寄稿している。

**イスラエル**

Galit Eilat (The Israeli Centre for Digital Artディレクター、イスラエル) 推薦

**アヴィ・サバー**  
Avi Sabah



各自アーティストとして活動するなか、アーティストのコレクティブとして「Barbur (ヘブライ語で白鳥の意味)」はエルサレムの唯一の非営利なアートギャラリーの運営を行い、先駆的な作品を紹介している。

**ヤナイ・セガル**  
Yanai Segal



《Flies》  
2003  
oil on linen  
30×40cm

**マーシャ・ツスマン**  
Masha Zusman



《House》  
2004  
ballpoint pen on wood  
400×240×240cm

[ラウンドテーブル①]参加者

メラニー・ボノ | Melanie Bono | アーヘン・ノイエ・クンストフェルアイン、ディレクター、ドイツ  
2007年1月以降、アーヘン・ノイエ・クンストフェルアイン (NAK) のディレクターを務めている。開催企画、組織のマネジメント、アーヘン市ほか地域の文化団体、企業との渉外業務、新規会員獲得につとめている。若手アーティストの国際プログラムのキュレーションと運営に力を注ぐ。チュービンゲン大学、シュトゥットガルト大学で美術史、社会学を学んだ後、2004年、アーヘン・コ・ファンデーション (ニューヨーク) で研修生として、映画、演劇、展覧会など様々な分野のプロジェクトを経験。2004年よりNAKで学術担当として勤務。2006年には、EU文化企画「アフター・ケージ」の企画を担当。2008年以降、アーヘン・ライン＝ヴェストファーレン工業大学美術史研究所客員講師を務める。

アグン・フヤットニカ | Agung Hujatnika | キュレーター、インドネシア  
1976年生まれ。2001年より、セラザール・スナリオ・アート・スペース (バンドン、インドネシア) のキュレーターを務める。オーストラリア、日本などで、キュレトリアル・レジデンス・プログラムに参加。様々な展覧会を企画するだけでなく、2006年、シンガポール・ビエンナーレのネットワーク・キュレーター、2007年、アセアン・ニュー・メディア・アート・コンペティション審査員なども務めており、1999年からは、インドネシアだけでなく海外でも様々な出版物のライターやエディターとして活躍している。2009年2月に開催されるジャカルタ・ビエンナーレ「Fluid Zones」のキュレーターも務める予定。

毛利嘉孝 | Yoshitaka Mori | 東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科准教授、日本  
1963年生まれ。社会学、文化研究、メディア論を専攻。九州大学大学院比較社会文化研究院助教授を経て、2005年より東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科助教授、2007年より東京芸術大学大学院音楽研究科 (音楽文化芸術環境創造研究分野) 准教授を務める。NPO法人アート・インスティテュート北九州 (AIK) 理事。2005年、福岡アジア美術館第三回福岡アジアトリエンナーレ出品作家専攻協議会委員、2007年北九州国際ビエンナーレ・ディレクターを務める。Inter-Asia Cultural Studies (Routledge) 編集委員。『文化＝政治：グローバリゼーション時代の空間の叛乱』(2003年)、『ポピュラー音楽と資本主義』(2007年)の著書などでも知られている。

[ラウンドテーブル②]参加者

マヌエル・ゴゴス | Manuel Gogos | キュレーター、文芸評論家、ドイツ  
1970年生まれ。文学、哲学、宗教を学び、現在文芸評論家、新聞・ラジオ・テレビほか、ドイツ連邦文化財団との協力のもと実現したフランクフルト歴史博物館の展覧会「Die 68er - Kurzer Sommer, lange Wirkung (68年世代ー短い夏、長い影響)」(2008年5月1日～11月2日開催)のキュレーションに携わるなど幅広く活躍。ドイツ連邦文化財団のホームページへの寄稿「Generation Super 68 (ジェネレーション・スーパー68)」もある。

アンケ・ホフマン | Anke Hoffmann | キュレーター、ドイツ  
1970年生まれ。ベルリン在住。ベルリン・フンボルト大学にて文化、社会学、政治学を学び、ロンドン・ゴールドスミス・カレッジでメディア論、社会学を修める。これまでキュレーターとしてベルリン、カッセル、カールスルーエなどで美術展、メディアアート展の企画に携わりと同時に審査メンバーとしても活動している。

ワシフ・コルトウン | Vasif Kortun |  
プラットフォームガランティ現代アートセンターディレクター、トルコ  
1958年生まれ。2001年よりプラットフォームガランティ現代アートセンターを創設し、ディレクターを務める。2001-2003年は、Proje4L, Istanbul Museum of Contemporary Artでトルコ人アーティストの独創性に富んだ展覧会をキュレーションしている。1994-1997年、初めてディレクターとして勤めたMuseum of the Center for Curatorial Studies at Bard Collegeでは、キャラ・ウォーカー、ネド・ソラコフ、ポリス・ミハイロフなどの展覧会を企画した。また、イスタンブール・ビエンナーレのチーフキュレーター(1992年)、共同キュレーター(2005年)、サンパウロ、台北ビエンナーレなどの共同キュレーターも務める。雑誌や展覧会カタログなど執筆活動も行っている。

ブラッドレー・マッカラム | Bradley McCallum | アーティスト、アメリカ  
1998年以来、ジャクリヌ・タリーと共同で作品制作を行っている。NY、ブルックリンを拠点に活動している。社会の中のマイノリティの周囲にある問題をとらえ議論することを作品のコンセプトに世界中で展示会を開催し作品を発表している。現在、黒人運動家の代表者マーチン・ルーサー・キング氏が暗殺された「1968年」をテーマに、アメリカでおこった市民権運動とともに、日本国内で起こった東大紛争をはじめ、小笠原諸島返還、安保運動、エンブラ事件等々の象徴的な報道写真を調査、制作活動を行っている。

湯浅譲二 | Joji Yuasa | 作曲家、カリフォルニア大学名誉教授、日本  
1929年生まれ。少年期より音楽活動に興味をおぼえ独学で作曲を始める。秋山邦晴、武満徹らと親交を結び、51年「実験工房」に参加、作曲に専念する。以来、オーケストラ、室内楽、合唱、劇場用音楽、インターメディア、電子音楽、コンピュータ音楽など、幅広い作曲活動を行っており、国内はもとより、世界の主要オーケストラ、フェスティバルなどから多数の委嘱を受けている。81年からカリフォルニア大学サン・ディエゴ校教授 (現在名誉教授) を務めている。1968年、Japan Societyの招聘で初めて渡米し、アメリカ各地の大学にて公演を行った。

アートの課題 | 多文化社会と新しいアートセンターの活動 | On the Agenda of the Arts  
Cultural diversity and the activities of New Art Centers

# 「WHAT GAME SHALL WE PLAY TODAY?」展

関連イベント | Related Events

ラウンドテーブル①

展覧会出展アーティストと推薦キュレーターが、展覧会で投げかけられた問題やテーマについてラウンジスペースにて討議します。

- ・会期:2008年10月25日(土) 15:00- (開場:14:30)
- ・会場:トーキョーワンダーサイト渋谷
- ・入場料:無料 (日英同時通訳あり)
- ・申込:不要
- ・出演:メラニー・ボノ (ドイツ)、アグン・フヤットニカ (インドネシア)、毛利嘉孝 (日本)、出展アーティスト、他

ラウンドテーブル②「1968-2008」

アートセンターのディレクター、アート専門家を変え、現代におけるアートセンターと「アートの課題」について、60年代に起こったムーヴメントとその今日的意味を考えながら議論します。

- ・会期:2008年11月16日(日) 15:00- (開場:14:30)

- ・会場:トーキョーワンダーサイト渋谷
- ・入場料:無料 (日英同時通訳あり)
- ・申込:不要
- ・参加者:マヌエル・ゴゴス (ドイツ)、アンケ・ホフマン (ドイツ)、今村有策 (日本)、ワシフ・コルトゥン (トルコ)、ブラッドレー・マッカラム (アメリカ)、湯浅譲二 (日本)、他

Round Table ①

What should be the role of the arts in a multicultural society? What are the challenges of art centers in society? In this round table artists and curators will discuss those and other questions and explore the potential of today's art in a global context.

- ・Date: October 25 (Sat.), 15:00 (Door Open 14:30)
- ・Venue: Tokyo Wonder Site Shibuya
- ・Admission: Free (with Japanese-English Translation)
- ・Participants: Melanie Bono (Germany), Agung Hujatnika (Indonesia), Yoshitaka Mori (Japan) and the participating artists

Round Table ②: "1968-2008"

How do the 60's and their climate of social transformation relate to today's society? To what extent do we share similar issues and challenges with a time, which brought about change in many fields of society? In the international round table "1968-2008" curators and experts will discuss the relevance of "1968" for today, particularly in the field of the arts and the role of New Art Centers in society.

- ・Date: November 16 (Sun.), 15:00 (Door Open 14:30)
- ・Venue: Tokyo Wonder Site Shibuya
- ・Admission: Free (with Japanese-English Translation)
- ・Participants: Manuel Gogos (Germany), Anke Hoffmann (Germany), Yusaku Imamura (Japan), Vasif Kortun (Turkey), Bradley McCallum (U.S.A.), Joji Yuasa (Japan)

基本情報 | Further Information

TWS shibuya

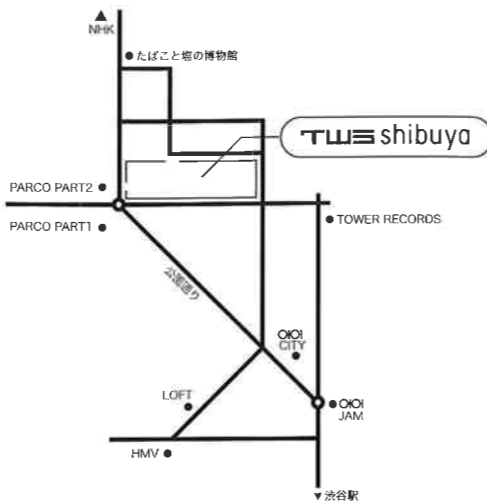
トーキョーワンダーサイト渋谷  
〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-19-8  
1-19-8 Jinnan, Shibuya-ku, Tokyo, Japan 150-0041  
TEL: 03-3463-0603  
FAX: 03-3463-0605  
E-mail: contact@tokyo-ws.org  
URL: http://www.tokyo-ws.org

交通案内 | Access

渋谷駅 (JR山手線・埼京線・湘南新宿ライン/東急東横線・田園都市線/京王井の頭線/東京メトロ銀座線・半蔵門線・副都心線)より徒歩8分  
※駐車場はございませんので、近隣の有料駐車場などをご利用ください。

Tokyo Wonder Site Shibuya is 8 minutes away from JR Shibuya Station. (JR Yamanote, Saikyo, Shonan-Shinjuku Line/ Tokyu Toyoko, Denentoshi Line/ Keio Inokashira Line/ Tokyo Metro Ginza, Hanzomon, Fukutoshin Line)

\*There is no parking lot.  
Visitors are encouraged to use public transportation.



マルクス・アムバッハ (ドイツ)  
Markus Ambach (Germany)

イスワント・ハルトノ (インドネシア)  
Iswanto Hartono (Indonesia)

アヴィ・サバー (イスラエル)  
Avi Sabah (Israel)

ヤナイ・セガル (イスラエル)  
Yanai Segal (Israel)

マーシャ・ツスマン (イスラエル)  
Masha Zusman (Israel)

サラ・ドラタバディ (イラン出身・日本在住)  
Sara Dolatabadi (Born in Iran, living in Japan)

栗林隆 (日本)  
Takashi Kuribayashi (Japan)

アリ・カイズ (レバノン)  
Ali Kays (Lebanon)

デニス・ギュル (トルコ)  
Deniz Gül (Turkey)

tokyo wonder site

GOETHE-INSTITUT JAPAN  
ドイツ文化センター

アートの課題 | 多文化社会と新しいアートセンターの活動 | On the Agenda of the Arts  
Cultural diversity and the activities of New Art Centers

# 「WHAT GAME SHALL WE PLAY TODAY?」展

2008/10/25 (土) → 11/16 (日) | 11:00 → 19:00 | 月曜日 (祝日の場合は翌火曜日) | 最終入場は30分前まで | 入場料:無料

トーキョーワンダーサイト渋谷 | 東京都渋谷区神南 1-19-8 | TEL: 03-3463-0603 / FAX: 03-3463-0605

VENUE: TOKYO WONDER SITE SHIBUYA / DATE: 2008/10/25 (SAT.) - 11/16 (SUN.) / OPEN HOURS: 11:00 - 19:00 (LAST ENTRY: 18:30) / CLOSED: MONDAYS (OR TUESDAYS WHEN MONDAY IS A NATIONAL HOLIDAY) / ADMISSION: FREE

www.goethe.de/agenda

主催:財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト、GOETHE-INSTITUT ドイツ文化センター  
Organizer: Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture, Tokyo Wonder Site, GOETHE-INSTITUT JAPAN